＜２＞　第４５回大会報告の案内

研究委員長　　相川　良彦

大会テーマ・セッション報告はコーディネーター大野・松岡両会員からの提案、また自由報告は会員の申し込みにもとづき、下記のように大会報告と日程を編成しました。自由報告はここ数年の増加傾向から一転して今年度は１１件と減少したため、例年通り統一会方式により実施します。１件当たりの持ち時間は３０分（報告時間２０分、質疑時間１０分）です。

３０分という限られた時間ですので、各報告者には効率的で効果的な発表の工夫をお願いします（例えば、レジメに目次や資料目録を添付、ＯＨＰ利用など）。

今年度は、大会２日目の午後に地元研究者や担当機関、現場担当者に「中山間地における村づくりのあり方」について報告いただき討議する、地元交流型のシンポジウムを新たに企画しました。せっかく地域に出向き学会を開くのであれば、大会テーマを現場の視点から逆照射し、地元の農業関係者・実務担当者と学会員とが意見交換するのも良いのではないか、と考えたからです。非会員による報告、協賛／後援団体を募る等のやや異質な開催形態をとるため、学会大会とは一応切り離して独自に運営します。ただ、内容的には大会テーマと連動しますので、ご都合のつく方は大会に引き続きご参加いただくようお願いします。地元の農民、自治体職員、ＪＡ・団体職員などへも呼びかけ、多数の方々に参加いただく予定です。

なお、前号「研究通信」No.187で募集しました９９年大会テーマとコーディネーターについて、１件の申し込みがありました。池上甲一会員（近畿大学）をコーディネーターとして「２０世紀日本農村の総括」というテーマです。９月開催予定の理事会で当申し込みテーマや陣容を中心に討議して内容をかため、１０月の大会総会時に研究委員会として提案することになるかと思います。